

「ハチ刺され」に御用心

森林総合研究所東北支所 チーム長（昆虫多様性保全担当）

磯野 昌弘

スズメバチ（写真－1）は、誰もが知っている身近な生き物です。軒下に巨大な巣を作るなど、人間社会との「あつれき」も生じやすく、人の命にもかかわる危険な生き物でもあります。ハチに刺されないためにも、スズメバチの習性を知り、うまく付き合っていきましょう。

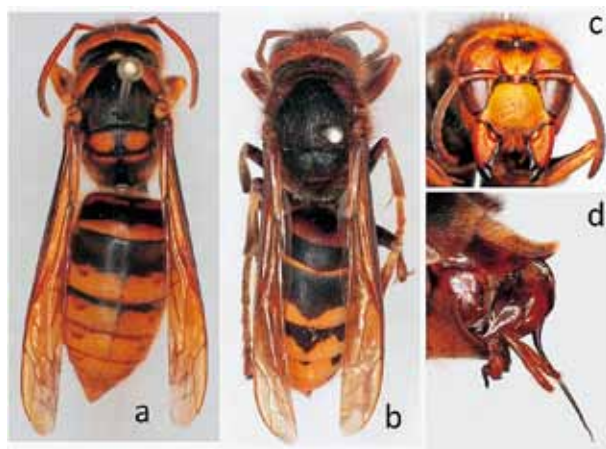
春に一匹の越冬女王により創設された巣（写真－2 a）は、夏の間に大きさを増し（写真－2 b）、それとともに攻撃性も増大していきます。この時期のハチは、巣に危害を加える外敵に対して、捨て身で攻撃をかけてきます。ハチ刺されを防ぐには、このような巣に近づいたり刺激したりしないことが肝要です。軒下や木の枝などに作られた巣は目につきやすく注意することができますが、天井裏や戸袋、床下の巣にはなかなか気づきません。建物の周りでハチの姿をよく見かける場合には、こうした場所に巣があることを疑ってみましょう。大木の樹洞や土の中に作られた巣では、人が近づくと、まずは、見張り役のハチが、大あごでカチカチと音をたてながら、しつこく威嚇してきます。野山を歩く際には、このようなハチの側からのサインに早めに気づき、その場を離れることが大切です。

一方、巣から離れた場所では、飛んでいるハチが、いきなり人を襲ってくることはありません。時には、偶然、家の中に迷い込んでくることもあります。こういう時には、窓を開ける等して気長に飛び去るのを待ちましょう。ハチが近寄ってきても、絶対に手で振り払ったりしてはいけません。ハチは「すばやく動くもの」に強く反応し攻撃を仕掛け

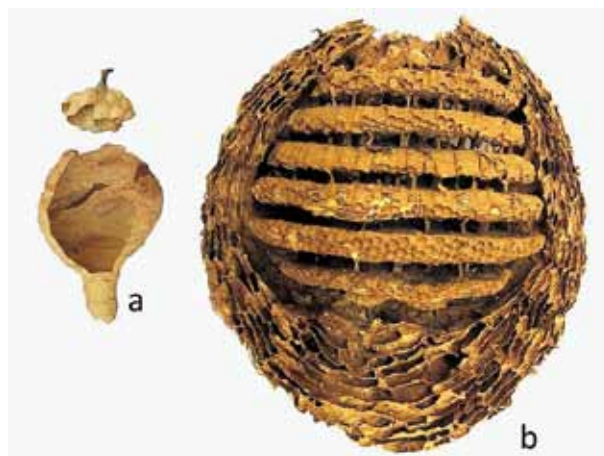
てくるからです。また、ハチは「黒いもの」や整髪料や化粧品品の「匂い」にも反応することが知られています。ハイキング等に出かける際は、黒い着衣や化粧品は控えたほうが無難です。それでも万一、襲われた時には、頭を衣類で被い身をかがめて、できるだけ遠く（最低でも30m離れた場所）へ逃げましょう。

毎年全国で20名程の方がスズメバチに刺されて亡くなっています。これは、毒蛇やツツガムシ等による死亡をはるかに上回る数字です。死亡はハチ毒に対するアレルギー性ショックにより起こります。こうした人がハチに刺されると、数分から30分以内に、血圧の急激な低下やのどの腫れによる呼吸困難が起こります。すぐに、「エピペン」と呼ばれる自己注射器で処置後、急いで医療機関を受診する必要があります。もしもの場合に備えて、あらかじめハチ毒に対するアレルギー検査を受け、結果を周りの人に知らせておくことも大切です。ハチ毒アレルギーでない人の場合にも、さまざまな程度の痛みや腫れが生じますが、命にかかわることはありません。

最後に、想いを巡らせてみてください。スズメバチは、イモムシやコガネムシなど他の昆虫を狩って幼虫の餌にしています。ひとつの巣の中には数千もの幼虫がいますが、これらを養うのに、どれだけの量の餌が必要なのか！憎まれもののスズメバチですが、生態系の中では、天敵として大切な役割も果たしているのです。



写真－1 キイロスズメバチ(a)、モンズズメバチ(b)、コガタスズメバチの顔(c)、オオスズメバチの毒針(d)



写真－2 徳利状の外皮をもつコガタスズメバチの初期巣（直径約6cm、a）とキイロスズメバチの巣の断面（直径約60cm、b）